
帰らない人 瑠璃偏

黴菌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

帰らない人 瑠璃偏

【Nコード】

N5220A

【作者名】

黴菌

【あらすじ】

あの時あなたがいなきや私の今はなかったよ…。隆がいてヒロがいて私がいて…。あの時の思い出は笑顔だった。

第一話：出会い（前書き）

帰らない人の瑠璃偏です。

初めての方は先にジャンルその他の 帰らない人を をご覧下さい。

切ないです。

どうぞいゆくり（、、）

第一話：出会い

私は木村 瑠璃。

なんとか頑張つて合格した片岡高校に今日から行きます。

友達できるかなあ??

私は大学に行つてもずっと俯いてた。

友達は欲しいのに人と接する事が苦手だった。

「お前、名前なんて言っん？」

驚いた。

誰かに話しかけられたのは久しぶりだったから…。

その人は正直言っすぎて格好よかった。

だから余計に戸惑った。

「はっ…えっ…と…。」

言葉に詰まった。

その時だった。

「隆い（汗）いきなりお前呼ばわりはないだろう（笑）この子困ってんじゃない（笑）」

友達らしき人物が近付いてきた。

「そつかそつか（笑）んぢや俺の方から名乗るな。俺は華家田隆！
隆って呼んでな。こっちは大谷弘つ。ヒロって呼んだって（笑）。」

「勝手に決めんな！！（笑）」

私はつい笑ってしまった。

「んでそっちは??」

「私は…木村瑠璃…。」

「はあゝかわええ名前やん（笑）んぢや瑠璃次の授業場所行こかあ
（笑）。」

「あつ…うん！！」

ありがとう…。

それから私と隆とヒロはいつも一緒だった。

第2話：不自然

日増しに私達は仲良くなっていった。

私にもたくさん友達ができてきた。

でもいつも一緒にいたのは必ず隆とヒロ。

気がつけば私は隆に恋をしていた。

隆は気付いてるの？？

隆が他の女の人と喋ってる時はすごく苦しかった。

でもそう思ってたら隆はいつも話しかけてくれた。

その時が一番安心したよ。

でもある日…隆とヒロは別々に学校に来ていた。

私達3人はもうダメになっちゃうのかなあって怖かった。

帰る時もヒロは先に帰っていた。

「るーりーちゃん！」

振り返ると隆がいた。

「どうしたの?? 私もう帰るけど……。」

「送ってくよ。」

隆は笑ってたけど……どこか真剣だった。

私は夕日に紛れて赤面になっていた。

こんな事は一度もなかった。

家が反対方向だったし。

隆はいつもヒロと帰ってたから。

私は…ヒロに嫉妬していたのかもしれない。

「いいけど…隆大丈夫なの??」

本当は絶対一緒に帰りたいけどヒロが気にかかったから聞いてみた。

「ええやんたまには！！行こうぜ。」

隆は手を差し出した。

私は恥ずかしかったけど手を取った。

いつもはよく喋る隆が…珍しくおとなしかった。

私は何か喋ろうと思って口を開いたけど…すぐに閉じた。

隆の顔が…何故か切なかったから…。

そうしてる内に家の前まで着いてしまった。

「じゃあな。」

「うん…バイバイ…。また明日…。」

私がそういうと…。

「明日…か…。明日な。」

隆は…そういつて…夕日に溶けていった。

第3話：夜の道

元氣のない隆が心配だったけど隆はすぐに帰っていった。

私はその後テレビを見てお風呂に入って…寝ようと思った。

いつもならすぐに眠りにおちるのに今日は何故か眠くない。

夜中の3時頃、私は無償にコンビニのおにぎりが食べたくなった。

それは珍しい事ではない。

私はコンビニのおにぎりが大好きだから。

迷わず家を出てそのままコンビニへ向った。

風の冷たい

真っ暗な夜だった。

私はコンビニで普通におにぎりを買ひ、密かに鼻歌を歌いながら真
っ暗な夜少ない星の下を歩いていた。

「瑠璃いゝ！うーい！」

その声に振り向く。

隆のいきなりの登場にたじろいだ。

「隆？こんな遅くに何やってんの？？」

「それコッチのセリフや！！（笑）」

良かった…わりと元気で。

そんな感じで私達は一緒に歩いた。

「なあ瑠璃？俺がおらんようになったらどないする？？」

おかしな質問だ。

「何それえ？（笑）隆は不老不死みたいなイメージだからわかんないよ（笑）。」

「俺って何者なんだよ！？（笑）ねえーまぢでどうする？」

なんか今日の隆しつこいな（笑）

「んー。しゃーない隆のタメにオイオイ泣いたげるよ（笑）そうだなーお墓参り行く時これ持ってくね（笑）」

そう言って私はおにぎりの入ったコンビニの袋を掲げる。

「鮭だかな！絶対鮭か梅な！！（笑）」

注文多いなあー。（笑）

「はいはい。わかってるってえ（笑）」

そう言っつと隆が立ち止まった。

「隆どうしたの？」

「瑠璃…好きだよ。」

急な告白に動揺した。

「……こらあ！からかうなあー（笑）」

馬鹿…何言ってるんだろ…。

隆の顔みりゃ本気な事位わかんじゃん。

「嘘じゃねえよ。それが俺の全部の気持ち。わからんでもええ。無理に受け止めんでもええ。その事を知ってくれただけでいいんや。…最後に……な。」

隆の言う意味がわからなかった。

「へ？最後つて？？」

その時…巨大なトラックがこちらに迫ってきた。

私は反応できない。

数秒後、けたたましい音がすぐ側で聞こえた。

私はトラックより少し離れた場所へ倒れている。

痛みはなかった。

だ
っ
て
…

だ
っ
て
…

ひ
か
れ
た
の
は
隆
だ
も
ん。

第4話：告白

私は声もでなかった。

ただ涙を流しながら…トラックの近くに血だらけで倒れている隆に近づく。

「どっして…どっして…」

そう呟きながら…。

私も怪我をしていた。

膝と両腕から血が垂れていた。

でも隆に比べればこんなものかすり傷にすぎない。

「隆……？ た……かし？」

隆の側まで行って私は崩れるように膝をついた。

「泣く……な……や。こっちが……苦しくなる……やん……か。」

隆は口から血を吐きながら苦しそうに言った。

「幸せ…な…女に…なるんやぞ…。きつと…また会えるから…笑って…待つといてや…。」

隆はそういつてうつすらとひらいていた瞳を閉じた。

「隆…私も好きだよ…。隆がいなきゃ笑えないよ??幸せになれないよ??。」

隆からの応答はない。

「聞こえないの…？隆？ずっとずっと好きだったんだよ？なんで…」

せっかく想いが繋がったのに…隆には届かなかった。

私の初めての告白は
隆に聞こえなかった。

私は無意識にヒロを呼んでいた。

ヒロが私のように運ばれていく隆にすがりつくように話しかけている。

私は… 隆を思い出す度泣いて、 隆が笑って待てと言ったのを思す度 作り笑いをした。

あの時の傷は私の心にもあり続けるんだろっ…。

背負っしかないんだね。

第5話：5年後の今

あれから…五年程たった。

私はあの事件の二年後にヒロと結婚した。

あの頃…隆意外には考えられなかったのに…。

隆が生きていれば…今ごろ私と隆は結婚していただろう…。

あの日私がコンビニに行かなければ隆は生きていただろう…。

隆が昔…私にくれたコンビニの鮭入りのおにぎりが大好きだった。

あの日はコンビニのおにぎりが食べたかったんじゃなくて…隆を思い出したかったためなんだろうか…。

私は今病院のベットにいる。

腕には昨日生まれた私とヒロの男の子がいる。

親指をくわえて眠っている。

名前はまだついていない。

「ねえヒロ。この子の名前…何にする?？」

いままで何度もこの質問をしたがヒロはいつも答えてくれない。

「これ…読んでくれ…。」

ヒロは珍しく真剣にヨレヨレになった手紙を差し出してきた。

「えっでもこれ…ヒロ宛って書いてあるよ？えっと…誰から…。」

『華家田隆より』

その文字が目に入った瞬間私に言葉に表せないような複雑な感情が
おしよせた。

黙って内容を読んだ。

手紙は隆で溢れていた。

全部わかった…。

「この子の名前…ヒロ…考えてるんでしょ??命名して。」

私は泣いていた。でも笑っていた。あの事件から…初めての正直な笑顔だった。

「隆…大谷隆だ。おせえぞ…おかえり…。」

ヒロは優しい顔で私の腕の中で眠っている隆に言った。

また…会えたね…。

隆…私…笑って迎えてあげれたよね？？

あなたに会えて良かった…。

おかえり…隆。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5220a/>

帰らない人 瑠璃偏

2011年1月13日08時17分発行